

算命学中庸

【初年】 20回目

20回目の授業はこのページからです。

授業科目 【干支】

【初年】 20回目【干支】 01

かんし
干支という勉強にはいります。

干支は、十干（上）と 十二支（下）で、セットになっています。このことはすでにご存じです。

干支の上「天干」と 干支の下（地支）の関係が『相生』
になっている。『相剋』そうこくになっている。『比和』ひわになっている。という3つの組み合わせがあります。

それらの組み合わせによって、占いに発展して行きます。

干支は【初年】9回目【六十干支】の授業で学びましたように60個の干支があります。

それら60個の干支を、5つの型に分類することができます。

干支は『相生・相剋・比和』それらを5種類の型に分類できる。

参考：型（いくつかの種類に分けられるもの）

『相生・相剋・比和』これらは5つの型になります。
具体的にやっていきますので、おわかりになります。

相生・相剋・比和についても、すでに勉強していますので、ご理解されていると思います。

『相生』は〔自分が相手を生じる場合〕〔自分が相手から生じられる場合〕2通りあるわけです。

『相剋』も〔相手を剋す場合〕〔相手から剋される場合〕2種類あります。

『比和』は〔おなじ者同士の関係〕なので、これは1つしかありません。

60個の干支は、相生は②種類あり、相剋も②種類あり、比和が①種類ですから、全部で5つの型（5種類）です。この関係を宿命に当てはめて、占いにつかっていくわけです。

宿命に当てはめるときは「日干支=自分自身」でみます。

〔たとえば〕2007年（H19）1月21日生まれの宿命は……前年2006年の「年干支」になります。2007年は2月4日からです。

	日干支	月干支	年干支
木性	乙	辛	丙
木性	卯	丑	戌

宿命（1）2007-1-21 生まれ

日干支の「乙卯」が自分自身です。

日干支が『相生』なのか、『相剋』なのか、『比和』なのかをみます。

この人の場合は、日干支の上は「乙」の木性です。

下は（卯）の木性ですから、『比和』になっています。

つまり、日干は「乙木」で、日支は（卯木）ですから、上も下も木性です。上下ともに五行は木性です。

自分自身、つまり「日干支」の上と下が『相生』になる人もいれば、上と下が『相剋』になっている場合もあります。そして『比和』になる場合もあります。

それゆえに、5種類の型に分類できます。

大きく見て「日干支」はその人自身ですから、日干支に内在されている性質の特徴が出てきます。

「日干支」は自分自身がいる場所です。厳密に言えば「日干」は自分の場所、(日支)は配偶者の場所、という意味があります。

「日干支」の上に位置する「天干=日干」に自分自身が座っています。(日支)は自分の下に位置していますが、上下関係の意味ではありません。算命学は「夫と妻は同等」と考えています。

ここでは大きく捉えて、日干支は自分のいる場所と考えてください。詳しくは徐々にまなんでいきます。

【初年】1回目【宿命と運命】17を参照するとよいでしょう。17頁に記載されている小泉進次郎の宿命でいえば、日干支「壬戌」の天干にある「壬」が本人です。その下の日支(戌)は妻の場所になります。詳しくは、そのような意味合いが含まれていますが、現在の勉強の段階としては、大きく捉えて頂いて、日干支は自分のいる場所と考えてください。

これらに内在されている意味は、勉強が進めば、必ず理解できます。

⇒ 『相剋』からはじめます。

宿命（2）相剋

○ 日干



日干が日支を剋しています

○ 日支

相剋の型は「日干」が（日支）を剋していく人

○ 日干



日干が日支から剋されています

○ 日支

相剋の型は（日支）から「日干」が剋される人

2つの形かたちがあります。

△（剋す）（剋される）の（→）（×）の印しるしについてですが
算命学では（木→×→土）または（木→×土）のどちらかの矢印
記号をつかっていきます。

どちらも相剋のマークです。 ご了承ください。

〔たとえば〕 ㊶日干支が「甲辰」の人は、上が木性です。下が土性です。(木→✕→土) と上が下を剋す姿になっています。

宿命 (3) ㊶㊷㊸㊹

㊶

木 甲
✕
土 辰

木は土のなかに根っこを張って、土のなかの養分や水分を奪っていきます。自分が相手をやっつける。そういう形になっています。

㊷

水 壬
✕
火 午

あるいは「壬午」という干支の人であれば、壬は水性で、午は火性です。上が水で下が火になっていけば、(水→✕→火) と水が火をやっつける姿。火を消してしまう姿ですから、上が下を剋す形になっています。

㊶『上が下を剋す形』になっている干支の人は、自分のほうから相手を剋していく姿です。

㊷『上が下を剋す形』で、自分が相手を剋します。

逆に、㊸のように〔相手から自分が剋される形〕になっている人もいます。 お解りになりますか……？

③ [たとえば] ③日干支が「甲申」の人は、
 木 甲
 金 申
 (金→木) と、下が上を剋します。
 金は固いので、木を切ったり、傷つけたりすることができます。

「甲」の人は、下の金性から (金→木) と自分が切られている姿です。

④ あるいは、④日干支「癸未」という人は、
 水 癸
 土 未
 (土→水) と、土は水を堰き止めたり、水を土で汚してしまう、水の質をやっつけてしまうことができます。

①②は「自分が相手を剋していく」という相剋の姿と、逆に③④のように「下から剋される」という相剋の姿があります。相剋でも2通りあるわけです。

そうしますと、つぎのように考えてゆくわけです。

⑤日干支が「壬午」なら、日干「壬」が自分自身なわけですね。この場合の下というのは地支（午）のことです。「壬午」のように、上が下を剋す人は——自分が相手を

剋していく。という形かたちになっています。

〔たとえば〕日干支が「癸巳」で（癸水 → 巳火）という相剋であれば、「癸水=自分」が、日支（巳火）を剋している姿です。自分が水で（水 → 火）と火を消します。

そうしますと、自分が相手の性格を消してしまう、相手がチカラを出せないようにしてしまう、相手が火の質をだせないようにしてしまう。というふうを考えるわけです。

ⒶⒷのように「日干」が（日支）を剋していく人は……

・ 自主性が強い

自主性が強い人になりますよ、というふうに考えます。

日干は自分自身です。

（水 → 火）とか（木 → 土）とか、その形はさまざまですが、自分が相手をやっつける。

自分が相手の性質を出さなせないようにしてしまう。

そういう姿の宿命です。

いいかえれば、相手の性質を出させないで、自分の性質を強く押し出そうとする人です。

・ 相手の意見よりも、自分の意見を重視する人

相手の意見よりも、自分の意見を重視する人になります。
このように考えます。

上が下を剋す人、自分が相手を剋す人は、自分から相手を相剋して、やっつけちゃうわけですね。

“やっつける”という言葉は、占いとしては好ましくありませんので、“相手の質を^{おさ}抑えて（押さえて）しまう”といえよらしいですね。

相手の質を抑えてしまう、ということですから、相手の意見を^{ふう}封じて、自分の意見を重視する人といえます。一言でいえば「自主性が強い人」です。という意味合いになるでしょう

参考・自主性〔他に依存せず、自分で考え、自分の力で行動する性質〕

△（剋す）（剋される）の（→）（×）の^{しるし}印についてですが
算命学では（木→×→土）または（木→×土）のどちらかの矢印記号をつかっていきます。

☞ 逆に——相手から剋される人はどうでしょう。

日干支◎「甲申」のように、日干が日支から剋されている「下が上を剋してくる人」は、自分のほうがやっつけられています。

(金 → 木) と、自分が剋されます。

◎は (土 → 水) と、自分が^{よくあつ}抑圧されています。

自分が押え込まれているために、どうしても自分自身の自主性が出せないわけです。

・ 自主性が弱い人

自主性が弱い人になりますよ。ということです。

自主性が弱い人なので、相手の考え方とか、相手の意見を重視してあげる人です。ともいえるわけです。

自分が押さえられているので、自分自身を抑制することができます。我が侂をいわないとか……。

・ 相手の意見を重視する

相手の意見を重視する人、というふうに考えるわけです。

✽ 令和天皇・^{なるひと}徳仁 1960(s35)-2-23

宿命(5) 令和天皇

	辛 戊 庚		石門星	天貴星	4 己卯
申	巳 寅 子	牽牛星	司祿星	鳳閣星	14 庚辰
酉	戊 戌	天極星	玉堂星	天報星	24 辛巳
	庚 丙				34 壬午
	丙 甲 癸				44 癸未
					54 甲申
					64 乙酉
					74 丙戌

✽ 皇后雅子 1963(s38)-12-9

宿命(6) 皇后雅子

					10 甲辰
	丙 甲 癸		牽牛星	天恍星	20 癸卯
午	戌 子 卯	司祿星	牽牛星	玉堂星	30 壬寅
未	辛	天庫星	龍高星	天報星	40 辛丑
	丁				50 庚子
	戊 癸 乙				60 己亥
					70 丁酉

✽ 秋篠宮^{ふみひとしんのう}文人親王

1965(s40)-11-30

宿命(7) 秋篠宮

						8 丙戌	
	戊	丁	乙		牽牛星	天祿星	18 乙酉
午	子	亥	巳	司祿星	祿存星	龍高星	28 甲申
未	辛		戊	天報星	玉堂星	天馳星	38 癸未
	丁	甲	庚				48 壬午
	癸	壬	丙				58 辛巳
							68 庚辰

✽ 文人親王妃紀子

1966(s41)-9-11

宿命(8) 紀子妃

							2 丙申
	癸	丁	丙		司祿星	天馳星	12 乙未
戌	酉	酉	午	龍高星	龍高星	車騎星	22 甲午
亥				天胡星	祿存星	天胡星	32 癸巳
			己				42 壬辰
	辛	癸	乙				52 辛卯
							62 庚寅

✽ 令和天皇・^{なるひと}徳仁 1960(s35)-2-23

辛 戌 庚

宿命(9) 令和天皇

巳 寅 子

令和天皇の宿命を読んでみましょう。

宿命を読むときは、必ず「年干支」から読みます。

令和天皇の宿命：

「庚子 こうきんのね」「戌寅 ぼどのとら」「辛巳 ^{しんきんのみ}」です。

♪♪ 声に出して、練習してくださいね。

(巳)の五行は火性ですから^びを付けました

令和天皇の日干支をみると「辛巳 ^{しんきんのみ}び」です。

天干は「辛^{しんきん}金」で、地支は(巳^み火)です。

つまり、上が金性で、下は火性です。

令和天皇自身は「辛金」ですから、五行は金性です。

^{いま}現在の勉強の段階では、宿命を見ただけでは——相剋とか、相生とか、ピンと来ない方もいらっしゃると思いますが、^な慣れると、すぐ判るようになります。

慣れるには、実際にノートに書いて、相生なのか、相剋なのか、確かめるとよいでしょう。

金
 辛 戊 庚
 巳 寅 子
 火

宿命（10）令和天皇

令和天皇の場合は（火→×金）と、下が上を剋す姿です。

火は金を溶かす、やっつけることができます。

下からやっつけられています。

下から抑えられています。

自分自身が相手から剋されていますから、この人は自分を抑えようとする人です。

自主性が弱い

自分の自主性をあまり出せない人ともいえます。

それが〔良いのか〕〔悪いのか〕わからないのですが、

つぎのような考え方はできます。日本は「象徴天皇制」

です。戦前のように天皇が実権力を行使できません。

その意味では、適しているともいえるわけです。

自主性が強ければ、象徴天皇としての役割を逸脱してしま^{いつだっ}うかもしれません。それは困ります。

^{いま}現在の天皇を拝見して、いかがが想われますか……？

＊ 秋篠宮 1965(s40)-11-30

戊 丁 乙
子 亥 巳

宿命(11)秋篠宮

秋篠宮様の宿命を読んでみましょう。

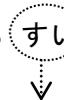
宿命を読むときは、必ず「年干支」から読みます。

秋篠宮の宿命：

「乙巳 おつぼくのみ」「丁亥 ていかのい」「戊子 ぼどのね」です。

♪♪ 声に出して、練習してくださいね。

(亥)の五行は水性ですからすいを付けました



秋篠宮の月干支を見ると「丁亥 ていかのいすい」です。

秋篠宮様の日干支は「戊子」ですから、土と水です。

土
戊 丁 乙
子 亥 巳
水

宿命(12)秋篠宮

上は土で「天干は土」、下は水（地支は水）です。

これは（土→×水）と、土は水を堰き止めてしまうことができます。土が水をやっつけています。

秋篠宮様は令和天皇と反対で、自分が相手を押さえてしまう、やっつけてしまう、相手の質を出させないようにしてしまうわけですから、自分の質を優先します。

自主性が強い

自主性が強い人です。という意味になります。

⇒ 日干支のところだけを観ると——令和天皇は自主性の弱い人です。秋篠宮様は自主性の強い人というふうになります。しかし、そのことが「良いこと」「悪いこと」それは決まっていないわけです。

“自主性が弱い” というのは



自分の自主性が出せない（頼りにならない人）

自分に自主性があっても、それを出せない人だとすれば、他人から見たときに、“頼りにならない人” というふう^{ひと}に評価されてしまうこともあるわけです。

逆に、良いほうにもできます。自分を前面に押しださない^{ひと}ので、好ましく評価される場合もあるのです。

自主性が弱いというのは〔相手に配慮する〕〔我儘をいわない〕つまり、真面目な人といえるでしょう。

誠実な人

ふつう真面目な人というのは、自分の自主性を強く出そうとはしないでしょう。きちんと決まり事などを守って自分の我^がを通そうとしないはずです。

自主性をださない人は、そのような人物ですね。ともいえるわけです。

良いほうに出れば〔ごまかしが無い人〕、悪いほうに出れば〔頼りない人〕になってしまいます。

どちらになるのかは、これだけではわからないのです。つまり、「日干支」だけだとわからないのです。

いずれにしても“自主性は弱い人ですね”と、いうだけであって、このことが、良いとか、悪いとか、論じることはできません。

令和天皇は、誠実なお人柄といえるのではありませんか、「雅子さんのことは僕が一生全力でお守りしますから……」お言葉です。

「天皇として自己の研鑽に励む……」お言葉です。

皇居内のお姿はわかりませんが、自分の我が儘^{わ まま}をいわないで、いらせられると想えます。

皆さまはどのようにお感じになりますでしょうか……。

かなり前になりますが、記者会見でお怒りになったことがありましたけど、あれは、ご自身のことではなくて、雅子様のことなので我慢できなかった。

⇒ それに対して——自主性が強いというふうな宿命は、“自主性が強い”ここだけを見ると、なにか立派な人、頼りになる人、そのようにみえるかも知れません。

“自主性が強い”というのは



自分の力で生きようとする人（頼りになる人）

自主性が強い人は、指図を受けずに、自分で行動しますから、“自分のチカラでやろう”とする人になります。

そういう人は、良いほうに出れば、頼もしい人だなど、まわりから見られるでしょう。

悪く出れば、我が儘とか自己顕示にもつながります。

わがまま

どのような自主性を出すのかわかりませんが我儘^{わがまま}です。

〔たとえば〕“これをやりなさい”といわれたのに、別のことをやるとか、そういう自主性かも知れませんよね。さまざまな自主性の姿はあるでしょうが、悪くすると、自分勝手な人物になってしまう。そういう可能性があるわけです。

参考・自主性〔他者に依存しないで自分で行動することができる性質〕

わがまま〔自分の思いどおりにする。そうならならぬと気がすまない〕

⇒ 秋篠宮様はどうでしょう。

“自分の思いどおりにしたい”というような質は結構でているのでは、いかがが思いますか……。

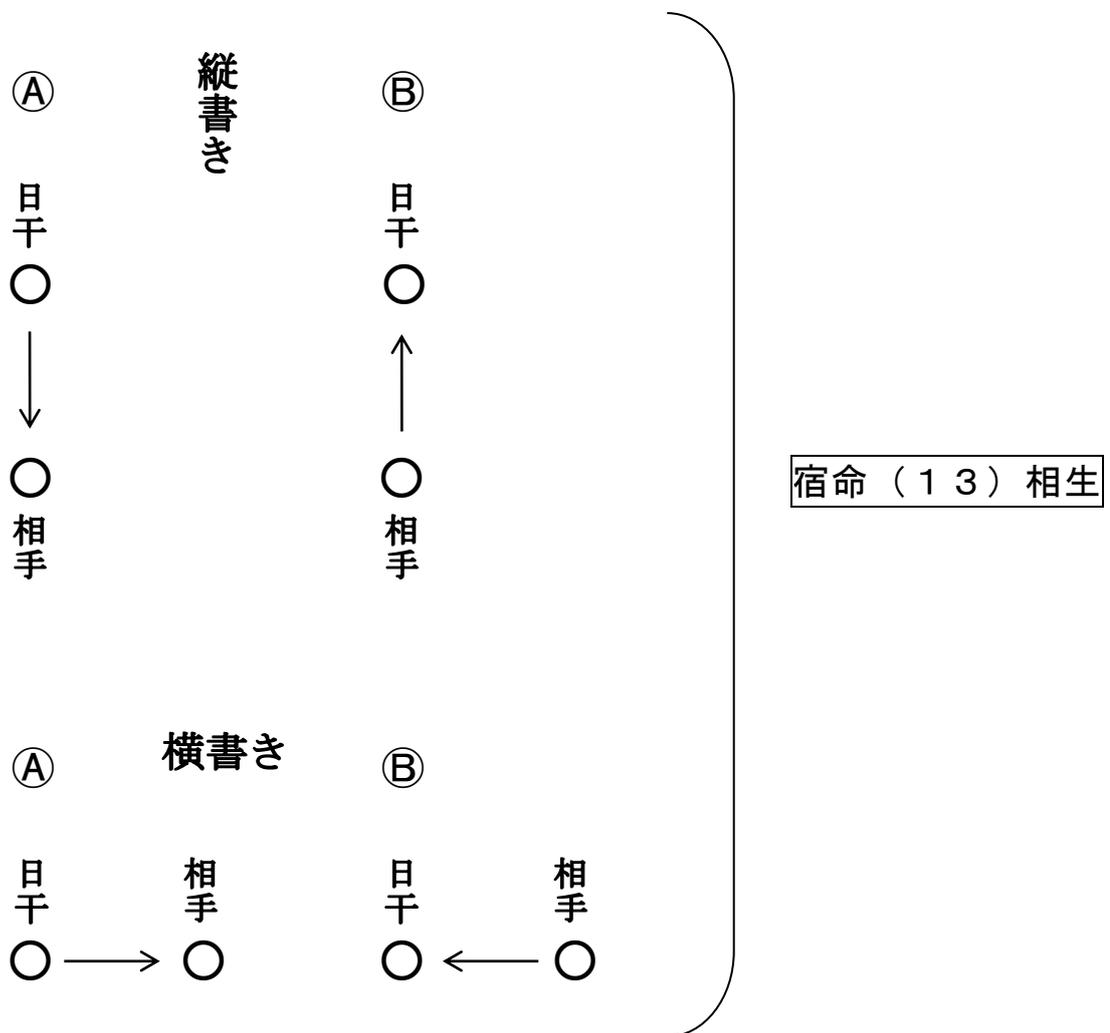
〔たとえば〕“タイに行きたい”といえ、まわりが止めてもタイへ行く。そういう人になる傾向をもちます。

〔髭をはやしたい〕と思えば、反対されても生^はやす。例えばそういうことです。(反対はされないので)

明治天皇・大正天皇・昭和天皇は髭^{ひげ}を生^はやしていました。

髭^{ひげ}を生^はやすのが、良いとか、悪いとか、ではなくて——そういう自主性の出し方もあります。ということです。

⇒ 『相生』 です。



相生の場合も2通りあります。

①自分が相手を生じる場合、つまり日干が下を生じる場合と、②反対に、相手から生じられる場合の2通りです。

「日干=自分」から相手を助ける場合と、相手から助けられるのを待っている場合の2通りあるわけです。

いずれにしても、「日干」は自分自身ですから〔自分が相手を助けに行こうとする人〕と、逆に〔相手から助けられるのを待っている人〕では、どちらの人が、積極的といえるでしょう。

自分から相手を助けるほうは、積極性がありますよね。そうしますと――、

日干 ① 相手
○ → ○ 積極的 　　そういう人になっていきます。

それに対して、こちらは相手から助けられるのを待っている姿ですから、消極的な人です。

日干 ② 相手
○ ← ○ 消極的 　　そういう人になっていきます。

(相手から助けられるのを待っている)

相手 日干 相手 日干
(水→木) とか (木→火) とか〔相手が自分を相生してくれる〕〔助けてくれるのを待っている〕わけですから、消極的、受身の人ですよ。といえます。

受け身

“自分が相手を生じる”というのは、相生ですから相手を助けるような関係だと、最初の人にやったと思います。(木→火)(金→水)とか、自分が相手を助ける。あるいは、助けようとする側ということで、“面倒見のよい人”になるわけです。

積極的といいましたが、これに付け加えれば――、



Ⓑは本人が受身です。助けられるのを待っています。

「私のほうが、助けられるのよ」と、そういうタイプの人になるので、Ⓑは面倒見が悪いわけです。



ところが……このことも誤解しやすいところなのです。

㊤のように、自分から相手を生じる人は、面倒見のよい人みたいなので、4「私はこの人とお付き合いしたいわ」と、想いを抱く方もいると思うのですが、どうでしょう？

㊦のように、相手から生じられるのを待っているような人は、受け身だし、面倒見が悪いから良くないのではとか、消極的だと世の中で成功しにくいのではとか、そのような心象をもつ人もいると思うのですが、これもいい悪いは全くわからないのです。

なぜかといえば、この事柄は「干支」の特徴であって、このことが良くでるのか、悪くでるのかは、そのときの環境とか、状況とか、相手にもよるからです。

自分が相手を生じる「干支」は、積極的で面倒見が良いといいましたが、悪く出たら、どうなると思いますか？

面倒見がよい

おせっかい 相手のほうは“面倒みてください”
とは言っていないかも知れないのです。

それでも、私が何とかしてあげたい、面倒見てあげる、

というような人物だとすれば、どうでしょう……？
積極的なのですけど〔おせっかい〕ともいえますし、
悪くいえば〔でしゃばり〕かも知れないわけです。

面倒見がよい

でしゃばり

ただの〔おせっかい〕〔でしゃばり〕になる可能性もある
わけです。

そうしますと、時と場合によって、その干支のもつ良さが
出る場合もあれば、干支のもっている悪いほうが出てし
まう場合もあるということです。

ゆえに、単純に〔いいとか〕〔悪いとか〕いえません。

自分が助けられる人のほうは、消極的で面倒見が悪くて
受け身だということですが、こちらのほうが〔落ち着き
があつていいな〕そのような評価もあるわけです。

ひかえめで落ちつきがある

⇒ 宿命を例題としてつかいます。

宿命（14）皇室の3女性

皇后雅子	上皇后美智子	紀子妃
S38. 12. 9	S9. 10. 20	S41. 9. 11
丙 甲 癸	甲 甲 甲	癸 丁 丙
戌 子 卯	子 戌 戌	酉 酉 午

皇室の女性を3人並べてみましたが、たまたま3人とも『相生関係』になっています。

まず宿命を読みます。「年干支・月干支・日干支」の順番です。

皇后雅子

癸卯（きすいのうぼく） 甲子（こうぼくのねすい） 丙戌（へいかのいぬど）

上皇后美智子

甲戌（こうぼくのいぬ） 甲戌（こうぼくのいぬど） 甲子（こうぼくのねすい）

ふみひとしんのうひきこ
文仁親王妃紀子

丙午（へいかのうまび） 丁酉（ていかのとり） 癸酉（きすいのとりきん）

♪♪ どうぞ声に出して読んでください。練習です。

宿命（15）皇后雅子

火
丙 甲 癸
戊 子 卯
土
積極的

皇后雅子様は「丙戌」で（火→土）と、
上が下を生じる形になっています。

火が燃えると（その灰は）土になります。

宿命（16）上皇后美智子

木
甲 甲 甲
子 戌 戌
水
消極的

上皇后美智子様は「甲子」で（水→木）
と、水が木を育てる、水が木を助けてく
れる。下が上を生じる形になっています
から、こちらのほうが消極的です。

宿命（17）紀子妃

水
癸 丁 丙
酉 酉 午
金
消極的

紀子妃は「癸酉」で（金→水）金が水を
生み出す。この姿は、上皇后美智子様と
おなじように、下が上を生じています。
ゆえに消極的で受け身です。

- ・ 雅子様は自分のほうから、相手を生じて行く姿です。
- ・ 上皇后様と紀子様は、相手から生じられる、助けてももらう姿です。

このように、生じる向きが、雅子様とは全く逆になっています。

『相生』は元々^{もともと}“助ける”という意味があります。

「甲子」のように（水→木）であれば、水が木を育てます。水が木を助けてくれます。

……助けられるのを待っているから受け身で、消極的といいましたが、[まわりの人がこの人を助けてくれて、この人の面倒をみてくれます] という意味が横たわっています。つまり、そのような環境には向いているのです。自分は受身にしていけばよいということです。

そうしますと、平成時代の皇室にはどちらのほう合っているのでしょうか。[向き不向きという意味では……]

「平成天皇ご自身は受け身でした」と、申しても過言ではありませんので、美智子様・紀様のように、消極的で受け身のほうが皇室に向いていました。

宿命（18）上皇后美智子

木
 ↗ 甲 甲 甲 美智子様は「甲子」で、下が上を生じる
 ↘ 子 戌 戌 姿になっています。
 水

消極的
 周りが助けてくれる
 面倒見てくれる
 という環境には
 向いている

自分から、あれやりたい、これやりたいといわないで、受身にしていれば、まわりが動いてくれて、いろいろと助けてくれます。という立場ですよ。

それゆえに、美智子様の日干支の姿だけを考えますと、平成の皇室には合っていました。

まわりが（水→木）とか（金→水）とか、助けてくれるわけです。

普通の家へお嫁に行くのに比べれば、皇室は受け身の姿でいられます。受け身でいるほうがよいともいえます。

「あのごとくなさりませ」といわれて、「わかりました」と、おこなうことが多いでしょう。

☞ 雅子様の日干支「丙戌」は積極的です。

本来、面倒見がよいわけです。

この宿命は（火→土）と積極的に動きたいのです。

それなのに自分からは動けない、誰の面倒も見ることができない、出しゃばってもいけない、おせっかいもいけない。となると、これは非常につらいです。

あのようになさってはいけません、外国に行ってはいけません。といわれたら、本人は極度につらいはずです。

積極的にやりたいことが出来て、いいたいことを言えて、という環境のほうが、雅様に合っているわけです。

本来の宿命がそうであり、そういうお人柄なのに、それができないわけです。宿命どおりではないので、非常に苦しいお立場であったわけです。

もともと、雅様は外交官を目指していたわけです。

宿命（16）上皇后美智子 **宿命（17）紀子妃** のほうは、本来が消極的ですから、あれしちゃだめですよ、これしちゃだめですよ、といわれたとしても——もともと受け身ですから、そのほうが楽でいいと、いうことになるのです。まわりから助けてもらおうお立場は合っています。

自分から積極的に行動して動くよりも、まわりから面倒を見てもらって、助けてもらって、いわれたことだけをする状況に合っています。ということになります。

⇒ 雅子様のような宿命で、本来、自分もっている資質^{おさ}を抑えなければならない。それは大変つらいですよ。このように考えるわけです。そうしますと、性質がよいとか、悪いとか、という意味はもともと無いのです。

その人の置かれた環境とか、立場などによって〔この人の宿命は、このような立場に合っています〕とか〔こういう環境には向かないですね〕とか、そのようになります。そこではじめて、この宿命にはよい（向いている）とか、この宿命には悪い（向いていない）とかの結果が出て来るようになります。

^{たんてき}端的に言えば、環境が宿命に向いていれば生きやすい、向いていなければ生きにくい。といえるわけです。

それゆえに、宿命そのものには、いいとか、悪いとか、という意味はないのです。

占うときは、宿命の大筋を捉えて、^{とら}観る必要があります。

☞ 宿命の「日干」は自分です。といたしました。

（日支）にも人物を配置できます。

日支には、その人物の配偶者が座ります。

つまり、結婚相手の場所（配偶者の場所）という意味があります。

宿命には六干支「上に三つの干」（下に三つの支）出てきますから、親の場所とか、子供の場所とか、いろいろな場所が決まっています。

それゆえに、それらの場所の意味合いも含めて、観ていくようになります。

人物とか、場所の意味合いは、もう少し先で勉強します。

⇒ 『比和』 になる干支です。

比和
日干
○
—
○
相手

縦書き

比和 横書き
日干 相手
○ — ○

宿命 (19) 比和

上と下がおなじもの同士を『比和』とといいます。

上と下がおなじになっている干支を『比和』とといいます。

日干支	月干支	年干支
丙	甲	辛
午	寅	酉

宿命 (20) 比和 — [たとえば]

「丙午」 丙は火性で、午も火です。

「甲寅」 甲は木性で、寅も木性です。

「辛酉」 辛は金性で、酉も金性です。

比和の干支 ⇒ 専気

上記3つのほかにもありますが、比和の干支だけは名前が付いています。

『比和』の干支を『専気 せんき』とといいます。

もう少し先に勉強が進みますと、たびたび『専氣』という言葉が出てきます。

『専氣』天干（上）も 地支（下）も、五行がおなじです。つまり、「氣」が片寄っています。

「氣」が一方づいています。という意味です。

⇒ 「日干支」が専氣せんきの人は、どのような特徴があるのか
といえは……。

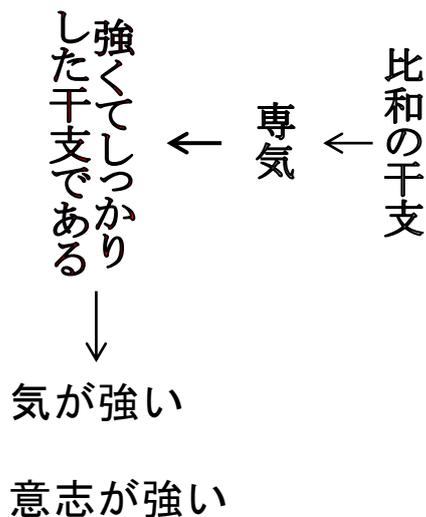
日 干 支	宿命（21）専氣		
火 丙	○	○	
火 午	○	○	

〔たとえば〕「丙午」という干支は、上も火で、下も火です。この姿は、火が1個あるよりも、火が2個あるほうが、火力は強い。というふうに考えます。

このことは、水でもおなじで、「壬子」とか「癸亥」とか、水も1個あるよりも、2個あるほうが、水の力は強いはずです。

『比和』の干支というのは、どれでも考え方はおなじです。金性も1個だけあるよりも、2個あるほうが、金性のチカラが強い。というふうに考えます。

ゆえに、専気の干支には“強い”という意味があります。



強くてしっかりした干支である。

「強くてしっかりしている火性」とか「強くてしっかりしている木性」という意味があります。

人間に置き換えれば、[気が強い]とか[意志が強い]という、意味合いになってきます。

ここで“しっかりしている”という言葉をつかいましたけど、“しっかりした人”……なにか誉め言葉のようになりますよね。

もちろん“しっかりした人”という姿にでる場合も多いのですが、そのことが良いのかどうか、わかりません。つまり、宿命によるのです。

専気の干支の人は、気が強く、意志が強いわけですから、



頑固

物事に動じない

融通がきかない

頑固とか、物事に動じない、あるいは、融通がきかない面があり、強くてしっかりしている。

それは長所にもなれば、短所にもなる可能性をもっています。

“融通がきかない”ということは――、

[たとえば] リストラとかで、必然的にほかの生き方を求められたときに、あたかも根を張ったように強いために、なかなか自分の生き方を変えられないわけです。

そういう質を内在しています。

……前にちらっとやりましたけど、小泉前首相の日干支は「辛酉」ですから『専氣』です。

上も金性、下も金性です。

氣も強くて、意志も強いです。

自分の考え方を曲げようとしない人といえます。

その質が良いほうに出るのか、悪いほうに出るのか——

“時と場合”にもよりますので、日干支が『専氣』というだけでは決められないといえます。

しかも、小泉前首相の宿命は特殊です。

極めて器が大きい「おおさんごうかいきよく大三合会局」に加えて、きんせい いっ きかく金性一気格という宿命です。

☞ 【干支】について、ここまでやってきました。

『相生』だとかこういう意味になるとか
『相剋』だとかこういう意味になるとか
『比和』だとこのような意味だとか

さまざまでした

ここでの考え方は、あとあと、必ず必要になってきます。
それゆえに、なぜ『相生』の場合はこういう意味になるのか、なんで『比和』だと……こういう意味になるのか、ということ、ご理解できていれば大丈夫です。

『相生』『相剋』『比和』をつかって、より高度な占いに発展していくようになります。

【初年】 20回目【干支】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 21回目【中庸思想】